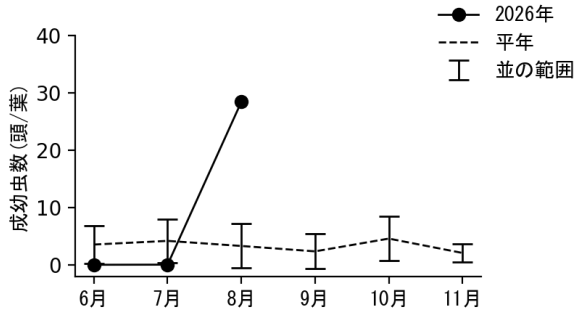
令和　8 年度　　9 月予報

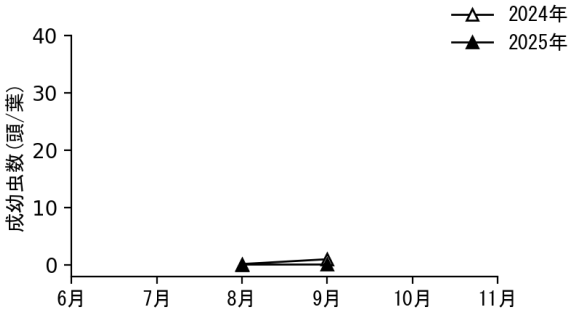
作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	多		
予　報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

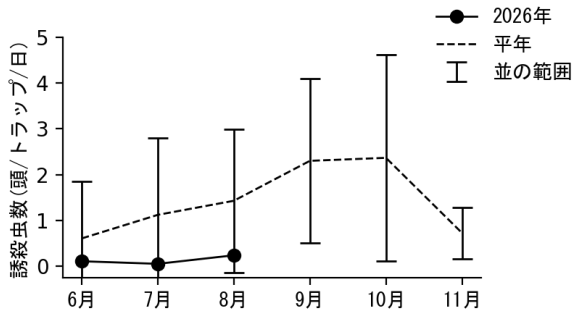
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



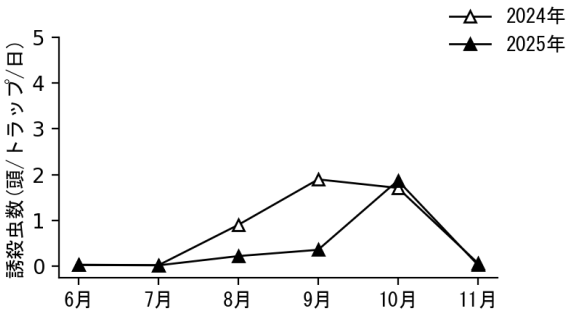
葉当たり成幼虫数の推移（過去２年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去２年）



・発生施設率100%（平年：72.5%）

防除のポイント

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ナガエコミカンソウ

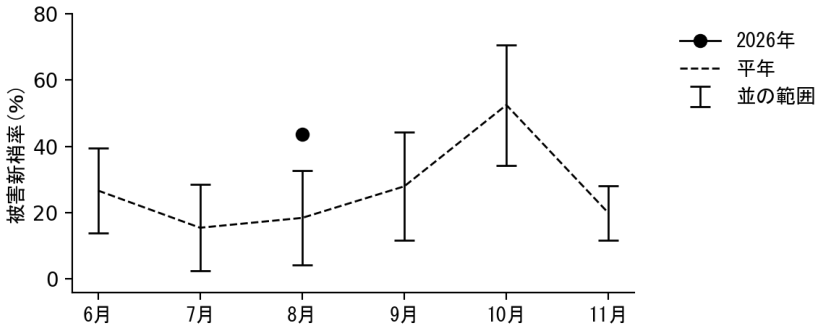
令和　8 年度　　9 月予報

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	8 月の発生量（例年比）	やや多		
予報	8 月からの増減傾向	↗		
	9 月の発生量（例年比）	やや多		
予報の根拠		例年の発生量の推移（↗）		

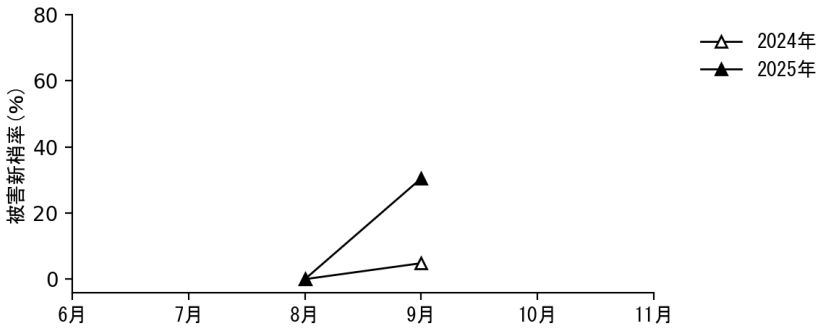
調査結果

寄生新梢率の推移

＜今期と例年＞



＜過去２年＞



・発生施設率87.5%（平年：61.0%）

防除のポイント

・産卵から羽化まで約2週間と繁殖スピードが速いことから、新葉をよく観察し、早期発見・防除に努める。また高密度に寄生された葉は落葉が早く、幼虫の脱出痕から炭疽病等にも感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。

・高湿度条件で幼虫や蛹の生存率が高まることが知られているため、施設内の湿度管理に留意する。

被害葉

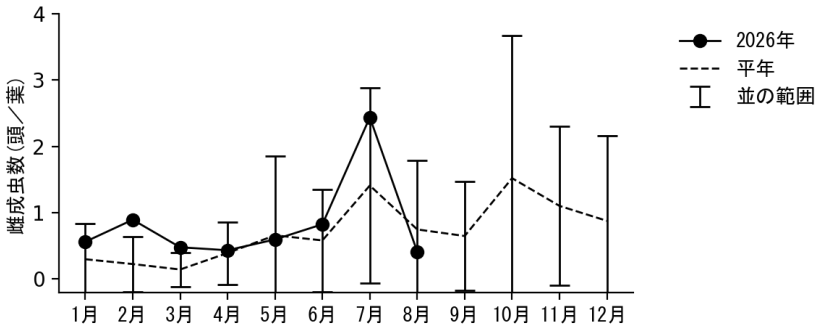
令和　8 年度　　9 月予報

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類	シュレイツメハダニ	
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

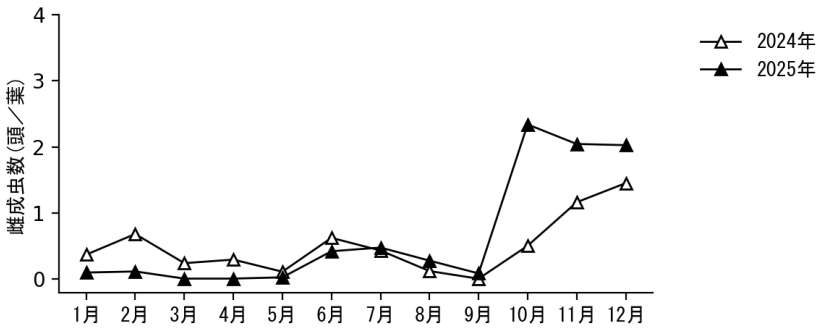
調査結果

雌成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生種：シュレイツメハダニ

・発生施設率75.0%（平年：49.3%）

防除のポイント

・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニの寄生による葉のかすれ症状

マンゴーツメハダニ